

## 【特別寄稿】 筑波大学附属病院検査部の将来像と医療科学主専攻

川上 康

(人間総合科学研究科病態制御医学専攻 / 臨床医学系 / 附属病院検査部長)

## 1. 臨床検査をとりまく環境の変化に対応して

高齢化や経済不況の影響で、検査室においても経営を考慮した医療が求められ何かと世知辛い今日この頃です。こうした検査室を取り巻く環境の変化と最近話題になっている生活習慣病に共通する点があると思います。生活習慣病について述べますと、日本人の食事内容が欧米でみられるような高カロリー、高脂肪食へと変化し、さらに運動量の低下が加わった結果、エネルギー収支は摂取過剰となり体内にエネルギーが蓄積するようになりました。体内へのエネルギー蓄積によって、欧米型生活習慣には適応しにくい遺伝的素因をもつ人々においては、糖代謝や脂質代謝の異常、さらに高血圧が生じます。生活習慣病になりやすい遺伝素因という悪い遺伝子のようにも思いがちですが、飢餓が日常的であった時代や、もしも将来食糧不足がおとずれた場合には、逆に生命維持にとって有利な遺伝子となります。こうした環境の変化の中でかわらず大切なことは、エネルギーを必要なだけ摂取し余分には摂らないことであり、遺伝子の問題は普遍的なものではありません。

検査部をとりまく環境も生活習慣と同様、激変していますが、こうした時代でこそ、検査部は何が本当に重要なことをじっくり考えることが必要だと思います。検査部に寄せられる要望を全てしっかり聞いた後に、病院の診療レベルをあげるには何かからすべきか優先順位を決め地道に対応することが必要だと思います。

## 2. 病院の診療レベルをあげるのに大切なこと

検査部は臨床の重要な部分を担っており、臨床に含まれるものであると理解しています。

## (1) 入院患者さんの検査結果が早くわかるメリットは計り知れない

多くの病院で入院患者の採血は早朝に行われませんが、例え午前中に測定結果がでていても、その数値を医師がみるのは、午後になってからです。この理由は、医師の多くは午前中には外来・手術に従事しており、気になっている入院患者の検査結果が出

ても調べることができないためです。そのため、既に朝に異常な検査値を示している患者さんの治療開始が夕方にずれこむことがあります。外来や手術を始める9時前に、少なくとも重症患者のデータがわかっていたら、早急に対処することが可能です。

## (2) 患者さんの病態を知ること

患者さんの病態を理解する目的で、検査室から病棟に積極的に出かけていくことが必要だと思います。例えば造血管腫瘍の患者さんでは、病態や病期によってどこまで詳細な検査をおこなうかが異なってくるはずですが、また、病棟に出ることによって病院で働く多くの部門の構成員との交流もより密となり、検査部への要望の本質を理解することが可能となるでしょう。

## (3) 専門性を高めること

血液生化学・血清検査や機能検査では各疾患の病態を深く理解することは結果の解釈や判定において非常に重要です。また附属病院では骨髄移植、臓器移植、遺伝子・細胞治療などの高度先進医療を行っています。従って、FISH、自分でプローブを工夫した定量PCRなどの遺伝子検査、骨髄像の高度な判定、細胞治療や遺伝子治療に用いるベクターや細胞の検定、パルスフィールドを用いた細菌同定など、より高度なレベルの検査が必要とされます。こうした医療ニーズに応えるような人員を配置することが必要不可欠です。

## 3. 医療科学主専攻の皆様へ期待すること

当検査部の前技師長であられた高野左重喜技師長がしばしば口にされていた言葉である「大学病院の検査技師は(にほんじん = 日本人?)でなくては駄目だよ」は、共感するとともに心に焼き付いています。ルーチン検査を一通りこなせるだけなら(いっぽんじん)、専門分野の知識は非常に豊富であっても夜間休日の緊急検査がこなせないのも(いっぽんじん)です。ルーチン検査を十分に習得し、かつ自分の専門領域を確立して初めて(にほんじん)という訳です。是非とも、臨床検査に進まれる皆様には(にほんじん)になることを期待します。

卒業後の進路は様々で、私が理化学研究所にいた時に会った方は、遺伝子クローニング、発現ライブラリー作製の達人で論文をばしばしに書いていましたが、臨床検査技師として病院検査部で勤務されたことがありました。いずれの道に進んでも、医療科学主専攻で学んだことを最大限に生かして多方面で活躍されることを強く要望いたします。

#### 4. 最後に

当たり前と言われるかも知れませんが、検査部は臨床の重要な担い手で病院の診療レベルに直結する部門であり、プライドと責任感を持って業務に従事することが大切だと考えております。医療科学主専攻を卒業された皆様が当検査部の戦力となり筑波大学附属病院の診療の一翼を担う日を楽しみにしております。